

研究の成果と課題

研究の成果と課題を明らかにすることによって、研究の価値がわかってきます。どのようなことを書けばよいのか、確認していきます。

(1) 研究の成果

研究の成果は、研究主題・副主題、研究仮説との関連性の上、研究結果をもとにして自論による主張を行います。何をどうすることによって、どのように有効であったかについて、簡潔に印象的にまとめるようにします。事実に基づかない意見や希望は書きません。

(2) 今後の課題

今後の課題は、一連の研究の反省点を、研究仮説、研究の内容と方法の両面から明らかにします。特に研究の事実からのものを中心に挙げるようにします。人によっては、研究主題・副主題、主題設定の理由、研究仮説、そして成果と課題を中心に読むことがあります。成果と課題の根拠を示し、よく分かるようにまとめることが必要になってきます。また、今後の見通しについても述べるようにします。それが、次年度の研究の方向性へとつながっていきます。

(3) 成果と課題のバランス

成果(○)と課題(●)の数ですが、○よりも●が多くなるとは、研究の価値が下がります。●よりも○が多くなるようにします。

今年度の本校の研究を振り返り、成果と課題をまとめてみます。

[手だて①] 6つの視点から「リーディングスキル」を高めるための工夫を取り入れた授業の継続

○ 6つの視点のうち「係り受け解析」「照応解決」が最も重要である

RSTの結果などから、授業の中で取り上げる視点を明確にして実践した結果、6つの視点の中でも「係り受け解析」と「照応解決」が最も重要であり、毎時間の授業の中で、意識していくべき視点であることがわかった。

○ 6つの視点から授業を構想した結果、リーディングスキルへの理解が進んだ

授業の具体的な場面で、どの視点に当てはまるのか、どんな手だてが必要なのかを考えていくことで、リーディングスキルの中身がわかってきた。

● 具体的な手だてを講じるためには教科書分析が必要である

取り上げる視点を明確にしても、授業の中で具体的な手だてを講じることは難しい。生徒がどこでつまづくのか、親密度が低い言葉はどれかなど、教科書を読む解像度を上げないといけない。

[手だて②] 授業内容が「わかる」「できる」の実感

○ リーディングスキルを意識した授業は「わかる」「できる」授業には欠かせないものである

授業者が言っていることがわからない、教科書に書いてあることがわからないのでは、「わかる」「できる」授業には近づかない。リーディングスキルによって、今までわからなかったことがわかるようになるための方向性を見出すことができた。

○ リーディングスキルは主体的・対話的で深い学びの実現に向けても必要である

リーディングスキルにより、授業内容がわかるようになれば、今求められている学びの実現に近づいていくことがわかった。

● 生徒はリーディングスキルを実感できていない

授業内容がわかる以前に、生徒は、まだまだリーディングスキルを実感できていない。自分が読めるようになるためには、どんなスキルが必要なのかを生徒に理解させ、身についたことを実感させなければならない。